京都中央市場新聞

〈発行所〉
一般社団法人
京都市中央卸売市場協会
郵便番号　600-8847
京都市下京区朱雀分木町
京都市中央卸売市場
（関連11号棟２階）
電話　075－323－6777
ＦＡＸ　075－323－6778

夏の名残りを楽しむ
京都市中央市場2019夏まつり開催

8月31日(土)、当市場恒例の夏まつりが京都市中央卸売市場協会(会長:内田隆京都青果合同株式会社代表取締役社長)主催、夏まつり実行委員会(実行委員長:林高正市場六団体青年会代表)の実施運営により開催され、約7千人が市場の食を楽しんだ。今年度は施設整備の影響により、前年度の仮設北卸売場から仮設南卸売場に場所を変えて行った。

午後4時45分からの開会式では、内田同協会会長が「恒例の夏まつりにお越しいただき、ありがとうございます。京都市場は現在、10年がかりの大改修工事を行っており、夏まつりも場所を変えながら開催している。鍋まつりや食彩市も継続していきたい。限られた時間の中でお楽しみください」と挨拶。来賓の門川大作京都市長は「本日の夏まつりは、市場で働いている方々が市民・地域の皆様への日頃の感謝の気持ちを込めて開催している。生産者を守り、消費者の皆様に安全・安心で豊かな食文化を提供し続けてきた京都市中央市場を未来の世代にしっかりと引き継いでいかなければならない」と祝辞を述べた。丸谷修一徳島県関西本部本部長からは「京都市場では、徳島県の生産物を販売していただき心から感謝申し上げる。鱧やちりめんじゃこ、すだち、鳴門金時など京料理、和食に欠かせない生産物を今後も出荷したい」と挨拶があった。

午後5時からは市場の食材や屋台での販売が始まった。六団体青年会では、マグロのステーキや焼きとうもろこし、フランクフルト、焼きイカ、ポテトフライ、焼き鳥など、京都青果協会では夏ずきん、トマト、ピオーネなど、京都水産協会ではちりめんじゃこのつかみ取りや練り製品などが威勢よく売られ、来場者たちは列を作って買い求めた。

徳島県からは「でり・ばりキッチン 阿波ふうど号」が出展された。これは昨年新調された3トンのキッチントラックで、6月のG20大阪サミットの首脳夕食会でも使われた。夏まつり会場では鱧のてんぷらや豊水梨などの試食が行われ、来場者は徳島県産の食材のおいしさに舌鼓を打った。午後6時半には勝村一夫同協会副会長が「中央市場を上げて地域の皆さんに夏の終わりを味わっていただきたい。最後までお楽しみください」と挨拶した。

ステージでは、和太鼓の演奏、ダンス、マジックなどのパフォーマンスが行われ、来場者は華やかな動きや音に盛大な拍手を送った。阿波踊りでは、大阪天水連の見事な動きのあと、来場者も教わって踊りに加わった。閉会式は、林高正同青年会代表の挨拶と中川恵司同協会副会長の三本締めで締めくくられた。

開会式で挨拶する内田隆
京都市中央卸売市場協会会長

開会式で祝辞を述べる
門川大作京都市長

大阪天水連による阿波踊り

京都中央綜合食品協同組合青年会メンバーが
鉄板の上で焼きそばを作る

市場の仕事と食材を学ぼう
夏休み子ども市場見学会開催

7月25日(木)、8月3日(土)に夏休み子ども市場見学会が行われ、合計200名以上の応募者の中から抽選で選ばれた合計78名が参加した。

午前8時、参加者は関連10号棟2階の会議室で説明を受けたあと、関連店舗・綜合食品店舗を見学した。次に水産物部に行き、2班に分かれて鮮魚・塩干の仲卸店舗で販売される食材を見て仕事の様子を学習した。東志水産ではハモの前処理を見学。細長いハモの腹が開かれて骨切りされるスピードや丁寧さに感嘆の声が上がった。越喜商店では、塩鮭の解説とちりめんじゃこの試食があり、親子ともに「おいしい」と笑顔になった。その後、低温卸売場にて、丸高水産によるマグロの解体が行われ、見学者は大きなマグロが手際よく切られていく職人技に感嘆した。水産物部の最後は塩干冷蔵庫の見学で、子どもたちはマイナス5度の寒さを体験し、夏の暑さを忘れて喜んだ。

次に訪れた青果部では、まず二次せりを見学し、目利きのプロたちによる早い口調と手やりの行き交いに圧倒されていた。青果仲卸店舗の見学後は、実際にせり台に立って模擬せり体験を行った。子どもたちは京都青果合同株式会社の社員に1～5までの手やりを教わり、ローラーの上を流れてくる果物の価格を当てていった。終わったあとは、成績の良かった順に賞品のパイナップルやメロン、キウイをもらい、保護者に自慢していた。

最後に京の食文化ミュージアム・あじわい館を訪れ、見学とアンケート記入を行って解散となった。

まぐろの解体の迫力に目を丸くした

せり人に手やりを教わる親子

七本松立体駐車場が完成

9月1日(日)、七本松通西側に七本松立体駐車場が完成し、使用が開始された。

同施設は、施設整備事業における水産棟屋上駐車場等の代替場所として、1月より工事が行われてきた。鉄骨4階建てで延床面積は10722.25㎡。2階の約100台分が一般向けの時間貸しで、それ以外の階の約400台分は市場関係者向けとなっている。京都市中央卸売市場協会が運営し、タイムズ24㈱が管理を行っている。

七本松立体駐車場

京の食文化ミュージアム・あじわい館
入館者20万人達成セレモニー

京の食文化ミュージアム・あじわい館は、平成25年4月の本オープン以来、京都市中央市場及び京の食文化をPRしてきた施設である。7月27日(土)に入館者が20万人に達したため、記念セレモニーが行われた。

20万人目の入館者は、畑中結月さん(小学5年生、西京区在住)で、同日に開催された「朝ごはん料理教室」のために、母親と一緒に入館した。セレモニーでは、内田隆同館運営委員会委員長(京都市中央卸売市場協会会長)から20万人目の認定証が、勝村一夫同委員会副委員長(同協会副会長)から京都市場経由の青果物と水産物が贈られた。

その後、内田委員長が「20万人目となった畑中さんとお母さん、おめでとうございます。当あじわい館は平成25年4月にオープンし、京都市と京都府が共同運営してきた。他市場と比べてもこれほど立派な施設はなく、食文化の推進に府市が力を入れているからである。京都市場は日本で初めて開設された卸売市場であり、現在、10年かけての整備中。これからも食文化を伝えられるよう努力していきたい」と挨拶を述べ、来賓の門川大作京都市長は「畑中さん、おめでとうございます。プレゼントの食材でますます元気に成長してほしい。開設90年を越えた京都市場は、世界に冠たる日本の食文化の担い手である。市場を守ることは農業と漁業の生産者を守ることにもつながるため、厳しい状況でも使命を果たさねばならない。多くの方に京の食文化を知ってもらいたい」と祝辞を述べた。畑中さんのお母さんからは「突然なので驚いたが、一生の思い出になる」と喜びの声があった。

館内では、光徳小学校の生徒たちによる食材の名前を書いた書道展が行われたほか、山形県産の尾花沢すいかと、同すいかの皮を使った漬物が振る舞われ、食材の大切さが伝えられた。

出席者で記念撮影が行われた

山形県産の尾花沢すいかが振る舞われた

山梨県産ぶどうのトップセールス

8月30日(金)、青果卸売場で長崎幸太郎山梨県知事、澤井實JA山梨中央会会長等を迎えて山梨県産ぶどうのトップセールスが行われた。

午前5時30分、青果卸売場ではぶどうの試食が行われ、市場関係者ははちきれんばかりのぶどうの粒を頬張った。

せりでは、長崎知事が「山梨のフルーツを関西の消費者の皆様にお届けいただき、感謝申し上げる。京都市場のおかげで山梨県はフルーツ王国として頑張っている。これからも、県・生産者・JAが一体となって、期待以上の生産物をお届けするべく全力を尽くす。ご愛顧ください」と挨拶し、続いて澤井会長が「知事を筆頭にプロモーションにやってきた。これからのぶどうのトップシーズンでは、京都の皆様に一粒の幸せをたくさん届けたい」と意気込みを語った。

せり台に並ぶ長崎幸太郎山梨県知事(左)と
澤井實ＪＡ山梨中央会会長(右)

産地支援活動　陸援隊を実施

8月8日(木)、食の海援隊・陸援隊の会員を対象にした産地支援活動「陸援隊」が実施され、会員29名と中川恵司京都市中央卸売市場協会副会長(京都中央市場青果卸売協同組合理事長)を始めとするスタッフ14名が京都府亀岡市、南丹市美山町、船井郡京丹波町を訪問し、圃場や選果場の見学を通じて食の起点の理解を深めた。今回で16回目。

参加者を乗せたバスは、松村憲司京都市中央市場次長の挨拶を受けてから出発。まず亀岡市のファーマーズ・マーケットたわわ朝霧の視察をしたあと、賀茂なすの圃場で収穫体験を行った。参加者は待田浩行亀岡広域営農センター課長補佐から大きさをチェックする金属の輪を手渡され、丸く育ったなすに当てて収穫した。

続いて美山町に向かい、伏見とうがらしの圃場を見学した。中西知JA京都京野菜部会美山支部支部長(JA京都京野菜部会南部副ブロック長)から山裾に広がるとうがらし畑を前に、間引きや害獣対策について説明を受けた。同じ美山町の山里旅館いそべにて昼食をとったあとは、生産者との交流会が開かれた。

はじめに中川副会長が「猛暑の中、朝早くからご参加いただきありがとうございます。我々は、安全・安心な農産物を安定的に供給するために日々市場で働いている。本日は、その川上である賀茂なすや伏見とうがらしの圃場、そして京夏ずきんの選果場を訪れ、産地の皆さんのご苦労を知っていただきたい」と延べた。産地側からは堀井俊輔JA京都営農部企画営農課長が「亀岡市や京丹波町は盆地であるため、朝晩の寒暖差を活かした野菜を作っている。野菜全体で約17億円の取扱高で、京野菜は約6億円を占めている。これからも産物を皆様に届けていく」とJA京都の特徴を説明した。生産者の話として、中西支部長が「今年は5月に苗を定植したが、日照不足と夜間の気温の低さで生育が遅れた。ブランド産品として認証されるために、肥料や農薬などの基準を守り勉強会も行っている」と現場の厳しさを語り、参加者に配った伏見とうがらしの選び方なども説明した。

最後に向かったのは京丹波町の京夏ずきんの選果場で、参加者たちは枝についた豆が一房ごとに分けられて、袋詰めされていく工程を間近で見た。一同は途中で「道の駅京丹波 味夢の里」に立ち寄ってから京都市場に着き、獲れたての京野菜を手に帰路についた。

伏見とうがらしの圃場を見学する

京夏ずきんの選別の様子

京都が誇る味覚が市場に到着

7月25日(木)、京のブランド産品に認定されている「京夏ずきん」が初入荷され、せりが行われた。今年は、昨年の豪雨や高温のために種子が少ないなどの影響があったが、生産者の努力で約900kgが入荷し、せり高値は秀(200g入)1袋が220円となった。入荷量は梅雨入りの遅れなどで前半については、昨年を下回る見込みであった。

8月31日(土)、「京たんご梨」の初せりが行われた。同梨は、ゴールド二十世紀という品種のうち、糖度や大きさ、外観などの厳しい基準を満たしたものが京のブランド産品に認定されている。今年の栽培状況は、6月の降雹や8月の台風などの悪天候に見舞われたものの、生産者の努力により大玉かつ高品質な梨ができた。入荷量は392ケース(10kg入)で高値は特秀(5L20玉入)1箱5000円、特秀(4L～2L)1箱4000円となった。

入荷した京夏ずきん

9月6日(金)、京のブランド産品である「紫ずきん」の初せりが行われた。今年は生産者の適切な栽培管理により、作柄は良好で、約700kgが入荷して、せり高値は秀(200g入)1袋390円となった。全体の入荷量は、昨年並みの見込みとなっていた。

紫ずきんの初せりが行われた

第64回場内親善野球大会を開催

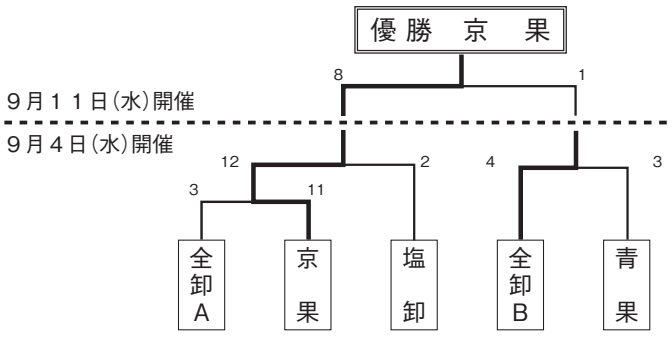
9月4日(水)と11日(水)、横大路運動公園で第64回場内親善野球大会が開催された。今年度は、昨年より1チーム多い5チームが出場したことで2日にわたって行われた。

開会式では、昨年優勝の京都青果合同株式会社チームから優勝旗が返還され、吉岡浩次野球部長(京都全魚類卸協同組合常任理事)による開会挨拶と始球式が行われた。選手たちはグラウンドに散らばり、トーナメント方式で熱戦が繰り広げられた。

決勝戦では、京果チームが京都全魚類卸協同組合Bチームに勝利して3連覇を果たした。両チームは、10月2日(水)に神戸市総合運動公園(神戸市須磨区)で開催された京阪神中央卸売市場体育連盟親善競技大会に京都代表として出場し、業界の部で京果チームが優勝した。

第64回　場内親善野球大会　成績表

優　勝	京都青果合同株式会社
準優勝	京都全魚類卸協同組合B
3　位	京都中央市場青果卸売協同組合
3　位	京都塩干魚卸協同組合



京の七夕で市場をアピール

旧暦七夕にあたる8月上旬、10回目となる「京の七夕」が開催され、梅小路エリアでは京都市中央市場が出展した。

同イベントは「祈り」「願い」をテーマに京都各地で開催されており、梅小路エリアでは4回目。期間は、8月2日(金)～8月12日(月・振休)で、8月11日(日)には市場六団体青年会(代表：林高正京都全魚類卸協同組合青年会長)が市場の食材のPRとしてJA道北なよろから提供された焼きとうもろこしを販売した。午前中から真夏日となる気温の中、青年会のメンバーは汗を流しながら京都水族館や梅小路公園を訪れる客に市場食材のおいしさをアピールした。

とうもろこしを焼く青年会メンバー

快進撃の京都サンガFCを応援

8月4日(日)、たけびしスタジアム京都で行われた京都サンガFC対東京ヴェルディ戦において、京都市中央卸売市場協会(会長：内田隆京都青果合同株式会社代表取締役社長)主催、市場六団体青年会(代表：林高正京都全魚類卸協同組合青年会長)実施運営で「京都市中央市場PRデー」が開催された。この事業は、京都市場の食材によってサッカーファンの雰囲気を盛り上げて京都サンガを応援しようというもので、今年で13回目になる。

午後4時、スタジアム横の広場に設けられた同市場ブースでは、よく冷えたスイカ40玉が青年会メンバーの手で1000人分に切り分けられて観客にふるまわれた。気温38度近い酷暑の中、観客は長蛇の列を作ってスイカを受け取り、果汁たっぷりの赤い果肉にかぶりつき涼と甘さを楽しんだ。また、今年は初めてちりめんじゃこの袋詰めも400人に配布され、観客は京都市場の多様な食材を楽しんだ。

午後6時の試合開始前には、フィールド内で内田会長と勝村一夫同協会副会長が、京都サンガの重廣卓也選手(8番)、宮吉拓実選手(30番)に市場の食材をプレゼントして試合開始前のイベントを華やかに盛り上げた。試合は、4対0で京都サンガが勝利した。

京都サンガF．C．の選手に市場の食材を贈呈する
内田隆同協会会長と勝村一夫同協会副会長

京都市中央卸売市場第一市場　青果・水産卸売業者取扱高

（単位：円）

令和元年7月

	野菜	前年対比	果実	前年対比	合計	前年対比
京果	3,774,509,638	89.3%	1,363,558,687	88.1%	5,138,068,325	88.9%

	生鮮	前年対比	冷凍・加工	前年対比	合計	前年対比
大京	884,666,225	92.9%	654,216,819	94.8%	1,538,883,044	93.7%
大水	701,364,596	99.9%	527,652,158	94.4%	1,229,016,754	97.5%
合計	1,586,030,821	95.9%	1,181,868,977	94.6%	2,767,899,798	95.3%

令和元年8月

	野菜	前年対比	果実	前年対比	合計	前年対比
京果	4,164,313,488	84.6%	1,409,068,273	98.0%	5,573,381,761	87.6%

	生鮮	前年対比	冷凍・加工	前年対比	合計	前年対比
大京	886,381,436	93.5%	583,290,914	88.2%	1,469,672,350	91.3%
大水	689,322,995	99.8%	518,361,886	88.4%	1,207,684,881	94.6%
合計	1,575,704,431	96.2%	1,101,652,800	88.3%	2,677,357,231	92.8%